

モーリタニア月例報告
(2025年2月)

2025年3月
在モーリタニア日本国大使館

【外政】

- 2月3日 2025年アフリカ開発銀行総裁選挙（各候補者への支持に関する分析）
- 2月9日 中東和平（イスラエルによるサウジアラビアに関する声明に対するモーリタニア外務省非難声明）
- 2月15日 AU首脳会議第38回通常総会（ガズワニ大統領スピーチ）
- 2月25日 AU議長国としての評価（メルズーグ外務・アフリカ協力・在外モーリタニア人大臣インタビュー）

【経済協力】

- 2月10日 令和6年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「マガマ市フィンボ小学校整備計画」及び令和6年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「トゥジュニン市イブン・ハルドウン小学校整備計画」署名式の実施
- 2月13日 令和3年度対モーリタニア無償資金協力「水産職業訓練センター施設整備計画」開所式の実施
- 2月27日 令和4年度対モーリタニア無償資金協力「経済社会開発計画」農業機材引渡式の実施

【広報・文化】

- 2月11日～13日 日本伝統音楽・書道グループ「TODOROKI with KOUKA」公演
- 2月27日 武内東京外国語大学教授によるオンラインセミナー

【その他】

- 2月10日 建国記念日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の祝意
- 2月21日 令和6年度天皇誕生日祝賀レセプションの開催

2月22日

天皇誕生日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の
祝意

【外政】

● 2025年アフリカ開発銀行総裁選挙（各候補者への支持に関する分析）

（2月3日付、当地独立系メディアCRIDEM）

1（1）1月31日午後5時（アビジャン時間）、アフリカ開発銀行（AfDB）の第10代総裁ポストの指名締め切りの時点で、女性を含む5人の応募が登録された。

（2）候補者は、南アフリカのスワジ・チャバララ（Swazi Tshabalala）氏、セネガルのアマドゥ・ホット（Amadou Hott）氏、モーリタニアのシディ・ウルド・タハ（Sidiould Tah）氏、ザンビアのサミュエル・ムンゼレ・マインボ（Samuel Munzele Maimbo）氏及びチャドのマハマト・アッバス・トリ（Mahamat Abaas Tolli）氏である。いち早く立候補を表明し、ナイジェリアのアキンウミ・アデシナ氏の後継者として有力視されていたベナンのロムアルド・ワダニ（Romuald Wadagni）氏は、土壇場で辞退した。

（3）これまではザンビアのマインボ氏とセネガルのホット氏が有力視されていたが、状況はやや変わったようだ。先日辞任するまでAfDBの上級副総裁を務めていた南アのチャバララ氏の存在は、ザンビアの候補の支持者を二分するだろう。

（4）南部アフリカの2人の候補者のうち、どちらかが辞退を余儀なくされるという見方もある。ホット氏については、選挙運動がなかなか軌道に乗らない。しかも、今のところ、選挙当日に重きをなす国々の支持を得ているようには見えない。

（5）このレースには考慮すべき要素がいくつかある。アフリカ54か国及びAfDBの非アフリカの加盟国（actionnaires）27か国の票を得るためのキャンペーンを展開しなければならない。とりわけ、ナイジェリア、米国、エジプト、日本、アルジェリア、南ア、モロッコ、ドイツ、カナダ、フランス及びコートジボワールの主要11か国を視野に入れる必要がある。今日まで、これらの国々の支援なしに当選した候補者はいない。

（6）AfDB総裁選は、何よりも一票がものを言う外交戦である。一部のAfDB加盟国、特に非アフリカ諸国の選択は、アデシナ総裁の戦略の継続を選ぶか否か、また候補者のプロフィールにも左右される。一部の国々は、AfDBを取り巻く沈黙の掟（omerta）を打破することで、AfDBのガバナンスを改革したいと考えている。さらに、アデシナ総裁の2期目は、西側諸国の特定の加盟国との間にいくつかの緊張関係があった。

（7）しかし、今から5月までの間に、多くの変化が起こる可能性がある。様々な理由で立候補を辞退する候補者が出てくる可能性もあるし、自らの立場を明らかにし、いずれかの候補者に有利になるようバランスを崩す重鎮が出て

くる可能性もある。ナイジェリア及び米国の役割は決定的である。

(8) AfDB総裁選挙は、ロビー活動、外交、コンセンサス及びタフな交渉の問題である。今のところ、ナイジェリアは多くの求愛を受けているが、バランスを取ることを優先しているようだ。

(9) 本年5月に予定されている選挙を前に、AfDB総裁選の5人の候補者のプロフィール及び経歴を紹介する。

2 チャバララ候補（南ア）

(1) チャバララ氏（58歳）は、唯一の女性候補である。AfDBのアフリカ第4位の投票権を有する南アのために立候補した。自国の経済力及び外交力を頼りに、英語圏の国々を自分の立候補で団結させたいと考えている。南アはその外交手腕で、BRICS諸国の一部の支持を獲得することは間違いないだろう。チャバララ氏は、AfDBに女性が総裁を務めたことがないという事実を利用することができる。

(2) 彼女はまた、2018年に財務担当副総裁兼グループ財務責任者として加わったAfDBグループの複雑な内部事情も活用できる。2021年11月、彼女はAfDBの上級副総裁兼財務責任者に任命され、この戦略的地位に就いた初の女性となった。AfDBの財務決定、投資及び経済優先事項において重要な役割を果たした。彼女は立候補に専念するため、2024年10月に辞任した。

(3) しかし、彼女にはいくつかの大きなハンディキャップがある。南部アフリカ開発共同体（SADC）は、ザンビアのマインボ氏を同地域の統一候補として全会一致で指名した。その結果、彼女はこの南部サブリージョンの国々から全面的な支持を得ることはできない。

(4) 第二に、同じ地域から2人の候補者を擁立することは、AfDBトップのローテーションに大きく依存している南部アフリカが、他の地域圏、特に候補者を擁立していない東アフリカの支持を得るチャンスを減らすことになる。さらに、彼女はAfDBの上級副総裁として、経営とガバナンスの責任も負っており、アフリカ以外の株主から全会一致で支持されるには程遠く、中には画期的な（de rupture）候補者の登場を望む声もある。

(5) チャバララ氏は、ローレンス大学で経済学士号（1989年）、米国のウェイクフォレスト大学でMBA（1992年）を取得し、財務、財務管理、資本市場運営及び投資において30年近い経験を持つ。

3 タハ候補（モーリタニア）

(1) 元AfDB副総裁のウスマンヌ・カネ氏が候補者として発表されていた中、最終的にモーリタニアからタハ氏が立候補することになった。1月29日、モ

ーリタニアのブー経済・財務大臣がAfDB事務総局に候補者の申請書を提出した。

（２）ガズワニ大統領の支持を受けたタハ氏の立候補が土壇場で正式決定したことで、状況が一変した。彼にはいくつかの利点がある。まず、北部アフリカから他に候補者がいないため、２０％前後の票を集めることができる。

（３）また、サウジアラビア及びAfDB加盟の湾岸諸国（アラブ首長国連邦及びクウェート）からの強い支持もある。これらの国々の票を取り込むことに成功すれば、それは必然的な結論ではないが、少なくとも選挙の第一ラウンドを通過することができる投票を得ることになる。

（４）モーリタニア人候補は西部アフリカでも支持を得ており、特にコートジボワール、ベナン及びこの地域の他の国々から支持を得ている。さらに、彼の立候補は、ある意味でワタラ・コートジボワール大統領の後援を受けている。そのことにより、モーリタニアと特別な関係にあるフランス及びスペインの票も得る可能性がある。

（５）第二に、過去１０年間アフリカ経済開発アラブ銀行（BADEA）総裁であったタハ氏は、アフリカ大陸の大統領官邸を知らないわけではない。彼は多くのアフリカの国家元首と緊密な関係を築いてきた。しかし、アフリカ票を獲得するためには、AfDBで最大の投票権を有するナイジェリアの支援を必要とする。

（６）候補者の可能性を高めるため、モーリタニアはアフリカ諸国及びアフリカ以外のAfDB加盟国との関係をベースに積極的な外交を展開している。サウジアラビアは投票に関してはそれほど大きなウェイトを占めていないが、多くの国に対して否定できない外交的影響力を持っている。実際、モーリタニア人候補の狙いのひとつは、湾岸諸国をAfDBに呼び込むことだ。

（７）タハ氏（６１歳）は、アラビア語、フランス語、英語のマルチリンガルで、ニース・ソフィア・アンティポリス大学（フランス）で経済学博士号を取得している。元モーリタニア経済・財務大臣で、２０１５年６月からBADEA総裁を務めている。以前はイスラム開発銀行（IDB）の投資マーケティングオフィサーとグループ総裁技術補佐を務めていた。

４ ホット候補（セネガル）

（１）セネガルのホット氏は、候補者の中で最も優れたプロフィールの１人だ。多くの国（フランス、英国、米国、アラブ首長国連邦）での豊富な経験に加え、電力、エネルギー、グリーン成長、気候変動を担当する副総裁、また最近ではアフリカのグリーンインフラ同盟を担当するAfDB総裁特使を歴任し、AfDBグループを熟知しているという強みがある。

(2) アデシナ現総裁のお気に入りという見方もある。億万長者のアリコ・ダンゴテ (Aliko Dangote) 氏やUBAグループ代表のトニー・エルメル (Tony Elumelu) 氏を始めとするアフリカを代表する人物からも支持を得ている。

(3) しかし、彼の立候補は停滞しているようだ。彼にはいくつかのハンディキャップがある。第一に、南部・中部アフリカ出身の候補者が提唱するAfDB総裁ポストの暗黙の持ち回り制は、退任する総裁が彼と同じ地域、西部アフリカ出身であることを考えると、彼に有利ではない。

(4) AfDBの歴史上、同じ地域出身の2人で総裁を交代したことは、1979年から1980年にかけての短期間、マラウイの暫定総裁が選挙で選ばれたザンビア総裁に引き継いだ例外を除いて一度もない。

(5) 第二に、この地域自体では、ナイジェリア、コートジボワール及びベナンの心を捉えることができない。南アの候補者と同様、彼は路線継続の候補者と見られている。彼の実績は評価できるかもしれないが、退任する総裁に近いことが不利に働くかもしれない。アフリカ以外の加盟国の中には、退任するAfDB総裁との関係がぎくしゃくしていた国もあり、画期的な (de rupture) 候補者を支持する可能性が高い。最後に、ホット氏はセネガルの新しい外交によるハンディキャップを背負っている。この外交はまだ始まったばかりで、彼らの貢献はあまり助けにならないかもしれない。

(6) ホット氏は、ニューヨーク、ロンドン、ドバイ及びラゴスで、ストラクチャード・ファイナンス、投資銀行、ソブリン・ファンドの管理、インフラ及び総合エネルギー・ソリューションの開発など、様々な分野で20年以上の経験を持つ。また、セネガルの経済・計画・協力大臣 (2019年4月)、サル前セネガル大統領特別顧問 (2022年4月～2024年4月)、優先投資保証基金 (FONGIP) 総裁も務めた。

(7) パリ第1大学パンテオン・ソルボンヌ校で経済学士号及び修士号 (専攻: 金融・マネー)、市場金融及び銀行管理の学位 (DEA) を取得。ニューヨーク大学で金融数学の修士号も取得している。

5 トリー候補 (チャド)

(1) チャドのトリー氏は、2024年3月に立候補を表明した最初の候補者である。彼は多くの月にわたって選挙活動を続けており、アフリカ大陸でAfDBを率いたことのない地域である中部アフリカの国々から唯一の立候補として支持を得ている。

(2) そのため、これらの国々は、今回はこの地域の候補者が有利になるような持ち回りを望んでいる。同人は、2024年3月に立候補支持を表明した中部アフリカ諸国経済共同体 (ECCAS) の少なくとも11か国の支持を得てい

る。また、チャドのマハマト・イドリス・デビー・イトノ大統領の支持も得ており、同大統領は同僚に対して全面的なキャンペーンを展開している。

(3) しかし、トリー氏は有力候補の一人ではない。実際、ECCAS諸国はいずれもAfDBの主要国ではない。第二に、彼はアフリカ以外の加盟国、特に西側諸国からの票を集めるのが難しく、チャド外交では彼らを説得するのは難しいだろう。

(4) パリの国立行政学院(ENA)とケベック大学を卒業した52歳のトリー氏は、大統領府官房長、税関局長、33歳で財務・予算大臣、その後インフラ・設備大臣と、自国で多くの役職を歴任してきた。また、中部アフリカ諸国銀行(BEAC)総裁、中部アフリカ諸国開発銀行(BDEAC)総裁及び中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)の銀行監視機関である中部アフリカ金融委員会(COBAC)の事務局長も務めた。

6 マインボ候補(ザンビア)

(1) ザンビア人のマインボ氏は、論理的には有力候補だった。彼は南部及び東部アフリカの多くの国々から支持を得ている。彼は2024年8月17日、影響力のある南部アフリカ開発共同体(SADC)の第44回通常首脳会議で選ばれた。

(2) 同年10月には、東南部アフリカ市場共同体(COMESA)の首脳の支持も得た。この地域の選択に加え、アングロサクソン諸国、特にAfDBの第2位の投票権を有する米国、英国及びアイルランド、その他多くの西側諸国の支援も得られるはずだ。

(3) 彼はまた、この仕事に最適なプロフィールのひとつを持っている。2023年7月1日以降、世銀の予算・実績審査・戦略計画担当副総裁を務めている。それ以前は、デビッド・マルパス(David Malpass)氏及びアジェイ・バンガ(Ajay Banga)氏の2人の世銀総裁の官房長を務めていた。

(4) さらに、マルパス氏が米国の新政権に近いことから、彼は米国の新政権の支援を受けることができる可能性がある。米国がAfDBの第2位の投票権を有することを考えれば、これは無視できない。最後に、AfDB総裁ポストの暗黙の交代ルールも彼に有利である。しかし、たとえ有力候補であっても、南アのチャバララ候補によって、彼のチャンスは危うくなる可能性がある。

(5) マインボ氏(52歳)は、世銀での23年間を含め、開発、金融市場、資源動員、戦略立案において30年近い経験を持つ。それ以前は、ザンビア銀行で銀行検査官、プライスウォーターハウスクーパース(PwC)で監査役を務めた。

(6) マインボ氏は、マンチェスター大学で行政学(銀行)の博士号、ノッテ

インガム大学で金融のMBA、英国で取得したフェロー公認会計士（FCCA）を持つ。

●中東和平（イスラエルによるサウジアラビアに関する声明に対するモーリタニア外務省非難声明）

（2月9日付、当地政府系メディアAMI）

1 9日、モーリタニアは、サウジアラビアに対するイスラエルの無責任な発言を非難し、国際規範及び国際法の容認できない違反行為であり、地域の安全と安定を脅かす挑発行為であると見なした。

2 これは、外務・アフリカ協力・在外モーリタニア人省が9日に発表した声明によるものである。

3 声明の中で同省は、モーリタニアがサウジアラビアと全面的に連帯し、その主権及び安全保障を支持することを宣言した。

4 声明は、パレスチナの大義及び国際的正当性の決議及びアラブ和平イニシアチブに従い、東エルサレムを首都とし、1967年の国境線上に独立国家を樹立するパレスチナ人の権利を支持するモーリタニアの立場を改めて表明した。

5 声明は、地域の安定を維持し、国際法の原則を尊重するため、国際社会に対し、これらの挑発的な発言に対して断固とした態度を取るよう呼びかけた。

●AU首脳会議第38回通常総会（ガズワニ大統領スピーチ）

（2月15日付、モーリタニア大統領府HP）

1 冒頭挨拶

（1）まず初めに、今次AU総会の円滑な運営を実現するために尽力いただいたエチオピア政府及び国民の皆様へ、心より深く感謝申し上げます。また、この由緒ある都市において、我々が常に温かい歓迎と惜しみないおもてなしを受けていることにも、改めて謝意を表す。この地は、AUが誕生した場所であり、創設者たちの理想と、アフリカ統一・安全・安定・繁栄への願いが込められた象徴的な場でもある。

（2）また、昨年のAU議長という大役を託して下さったアフリカ各国の首脳の皆様にも、心から感謝申し上げます。皆様からの力強い支援と継続的なご協力に支えられ、私（ガズワニ大統領）はこの責務を果たすことができた。さらに、我々

の招待に応じ、この２０２５年の極めて重要な年次総会にご臨席いただいた国家元首、政府首脳、国際機関の代表の皆様にも、深い謝意を表する。この一年は、不確実性と懸念、そして多くの疑問が渦巻く時代の節目ともいえる年である。

２ 国際情勢

（１）我々がＡＵ輪番議長国を務めたこの一年は、国際的にもアフリカ大陸全体としても、極めて困難かつ機微な状況にあった。しかし同時に、アジェンダ２０６３の実施に向けた第２次１０か年計画が採択された年でもあった。この計画は、加盟国や地域経済共同体、アフリカ連合の各機関が策定する中期開発戦略の基本的枠組みを形成するものである。

（２）この１０か年計画の採択は、アフリカの未来に対する我々の共通の意志が、いかなる障害があろうとも揺るがないことを明確に示している。課題は多く、挑戦すべきことも大きい。我々は、すべてのアフリカ国民が願う「我々が望むアフリカ」の実現に向けて邁進する決意である。議長職を引き継いだ際、私はその責務の重大さと状況の緊迫性を深く認識していた。

（３）今日の世界は、多様な危機が増大し、対立の構図が広がり、紛争の火種が各地で増え続けている。その影響は、国際関係のみならず、第二次世界大戦後の国際秩序の基盤を揺るがすほどのものとなっている。一時は国際機関の発展と、より平和な世界への期待が高まったが、その希望は次々と打ち碎かれ、国際秩序は徐々に再編されつつある。その新たな枠組みの全容や行く末は、未だ明確ではない。

（４）残念なことにここ数年流血が絶えず、多くの人々が深刻な人道的危機に直面している。世界は、第二次世界大戦以来、類を見ないほどの暴力と残虐行為を目の当たりにしており、占領下にあるパレスチナの現状こそ、その最も顕著な証左と言える。

（５）さらに、アフリカ大陸でも、紛争、暴力、過激主義、テロリズムが横行し、この厳しい国際情勢に拍車をかけている。これらの危機は、もともと貧困や失業、医療・教育制度の脆弱さ、経済基盤の不安定さといった深刻な課題を抱えるアフリカの発展努力に、極めて深刻な悪影響を及ぼしている。加えて、気候変動による壊滅的な影響や武力紛争の蔓延が、安全と安定を脅かし、社会の結束を分断し、人々の生活に甚大な打撃を与えている。

（６）こうした困難に立ち向かう決意を、私はＡＵ第３７回首脳会議の閉会式で表明した。

３ 平和構築と紛争解決に向けた努力

（１）我々は、任期を通じて、ＡＵの規則を厳格に遵守し、各機関の調和を保ち

ながら、AUC、地域経済共同体、地域メカニズムと緊密に連携し、平和構築と紛争解決に向けた努力を継続・強化してきた。例えば、リビア問題に関しては、サス＝ンゲソ・コンゴ（共）大統領が率いるAUハイレベル委員会の取組みを支援してきた。また、暴力の終結を目指し、カガメ・ルワンダ大統領及びチセケディ・コンゴ（民）大統領と定期的に協議を重ね、コンゴ（民）の情勢の安定化に尽力した。

（２）さらに、２０２４年１２月１８日には、モーリタニアにおいて、スーダンと平和努力の調整を強化するための第３回協議会合を開催した。加えて、２０２５年１月１３日と１４日には、ブルハン・スーダン暫定主権評議会議長をヌアクショットに迎え、スーダンにおける暴力の即時停止と国民の安全確保、領土保全の重要性について協議した。

（３）AU及び地域経済共同体、さらには各加盟国の努力にもかかわらず、我々の大陸における包括的かつ持続的な平和の実現は、依然として達成すべき目標である。私は、２０２２年５月のマラボ特別首脳会議で採択された果敢な決定の実行を強く求めるとともに、アフリカの平和・安全保障構造のあり方を４つの観点から問い直す必要があると確信している。それは、調和・持続可能な資金調達・実効性・包摂性、そして現行の安全保障上の課題や突発的な憲法違反の変化に対する適応性である。こうした改革によって、紛争の平和的解決を可能にする適切なメカニズムを確立し、平和・安全・安定という課題により効果的に取り組むことができるだろう。そして、これは道義的な義務であると同時に、我々全員が負うべき共同責任でもある。

（４）この挑戦に立ち向かうためには、我々一人ひとりの努力と、全体としての協調した総力を挙げた行動が求められている。

４ 開発協力

（１）我々は、この任期中、開発アジェンダに格別の注意を払い、大陸の増大する開発ニーズに応えるために資金調達の強化に努めた。その一環として、数多くの首脳会議を主催し、または参加した。

（２）２０２４年４月には、ルト・ケニア大統領とともに「ナイロビ・サミット」を開催し、国際開発協会（IDA）の第２１次増資に向けた支援を推進した。また、同年１０月には、ワタラ・コートジボワール大統領とともにアビジャンで開催されたハイレベル経済サミットを通じて、この支援の流れをさらに強化した。これらの取組の結果、IDAの資金は過去最高の１０００億ドルに達した。

（３）さらに、韓国・アフリカサミットにも参加し、韓国によるアフリカ向けの開発援助資金が５５億ドルから１００億ドルへと大幅に増額され、加えて１４０億ドルがアフリカでの投資促進のための輸出金融として確保された。また、中

国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）第4回首脳会議では、中国政府がアフリカの開発促進のために500億ドルを拠出することを発表した。

（4）資金調達の取組に並行し、2024年6月のイタリアでのG7サミット、同年10月のロシアでのBRICSサミット、同年11月のブラジルでのG20サミットなど、各国際会議において、債務問題の解決や、開発援助制度の見直しの必要性を強調した。現在の援助制度は、目標を十分に達成できておらず、開発資金の新たな枠組みを創設し、より柔軟で持続可能かつ公正な資金調達手段を確立する必要がある。とりわけ、最貧国が自国の優先課題に沿った資金を円滑に得られる仕組みの整備が急務である。また、アフリカの多国間金融機関での代表性を強化し、開発ニーズを国際アジェンダに反映させることも求めてきた。

（5）こうした資金調達の取組みの根本的な目的は、アフリカの膨大な資源と潜在力を、持続可能な開発へと確実に転換し、経済・安全保障・健康・環境といった深刻な課題への対応能力を強化することにある。

（6）この文脈において、去年のAU総会でテーマに掲げた「アフリカにおける包括的かつ持続可能な教育システムの構築」を受け、2024年12月には、AUと協力し、モーリタニア・ヌアクショットで「教育、若者及び雇用可能性に関する大陸会議」を開催した。これは、アフリカ人口の3分の2を占める若者層に焦点を当て、失業・暴力・過激化・逸脱・非正規移民・人材流出といった課題に包括的に取組むためのものである。

（7）今次AU総会において、「ヌアクショット宣言」の採択を提案する。本宣言は、教育を持続可能な開発の基盤とし、安定と安全を支える協力的な要素とすることで雇用創出を促進することにより失業・貧困・社会的脆弱性を軽減することを目的としている。

（8）アフリカの若者には、効果的な教育・職業訓練システムが必要である。また彼ら若者を含む、すべてのアフリカ市民は、質の高い医療サービスへの普遍的なアクセスを確保できる保健システムを求めている。とりわけ、最近アフリカで流行したサル痘、マールブルグ病、コレラなどの感染症に対応するためには、強靱な保健システムの整備が不可欠である。

（9）この機会に、アフリカ疾病予防管理センター（アフリカCDC）の迅速な対応を称賛し、カセヤ・アフリカCDC所長とそのチームの尽力に深く感謝申し上げる。本日皆様に対し、この分野に関する詳細な報告を行う予定である。

5. 食料、農業、エネルギー

（1）「ダカール宣言」における食料主権の概念及び米国・アフリカサミットの合意文書を踏まえ、農業システムの強化に向けた2つの特別サミットを開催した。1つめは2024年5月にナイロビで開催した「土壌の健康と肥料に関する

サミット」、2つめは2025年1月にカンパラで開催され、アフリカにおける強靱で持続可能な農業・食料システムの構築をテーマとした。このサミットでは、2026～2035年のアフリカ包括的農業開発のための戦略及び行動計画が採択された。

(2) これらの成果を踏まえ、本AU総会において、戦略及び行動計画を含む「カンパラ宣言」及び肥料と土壌の健康を通じた持続可能な食料生産、投資促進、産業的農業の構築を目的とする「ナイロビ宣言」の採択を提案する。

(3) 農業を含む生産性の改善には、十分な量のクリーンエネルギーが適切なコストで提供されることが不可欠である。この目標を達成するため、我々は2024年1月に、サミア・タンザニア大統領と共に、アフリカ開発銀行及び世銀と連携し、ダルエスサラームでサハラ以南のアフリカの3億人が電氣を利用できるようにする「アフリカ・エネルギー・サミット『ミッション300』」を開催した。

(4) サミットでは、多くのアフリカ諸国が自国のエネルギー政策に関する誓約を発表した。この場を借りて、アデシナ・アフリカ開発銀行総裁(AfDB)及びバンガ・世銀総裁に対し、今回の意欲的なパートナーシップを推進し、アフリカの開発を継続的に支援してくださっていることに、心より感謝申し上げる。

(5) さらに、環境問題にも深く関わるエネルギーについて、アフリカは温暖化への貢献度が低いにもかかわらず、その影響を大きく受けている。しかし、我々は公正かつ段階的なエネルギー転換を実現するために、大きな努力を重ねてきた。このため、2024年11月にバクーで開催されたCOP29において、国際社会が責任を果たし、アフリカの気候変動対策能力を支援する必要性を、AUを代表して強く訴えた。

6 アジェンダ2063の第2次実施計画の目標達成に向けて

(1) アジェンダ2063の第2次実施計画の目標達成は、AUと地域経済共同体及び地域機関との連携に深く強く結びついている。

(2) このため、2024年7月にアクラで開催された半年ごとの調整会合において、各国の国家計画を大陸規模のプログラムに統合することの重要性を強調した。これは、アフリカ全体の統合を促進し、国際社会におけるアフリカの発言力を強化するための重要な一歩である。この「統一された声」こそが、アフリカが国際的な議題の策定において効果的に貢献し、アフリカの重要課題に焦点を当てた議論を推進するための鍵となる。

(3) こうした観点から、我々はあらゆる場において、アフリカ大陸が国連安全保障理事会及び多国間金融機関で適切に代表される権利を主張し、国際ガバナンスの枠組みを再構築する必要性を訴えてきた。また、多国間協力の強化を求め

る我々の働きかけは、各種サミットや会議において肯定的な反響を呼び、具体的な行動を約束する表明を得ることができた。

（４）しかし、これらの約束を確実に履行し、さらにアフリカ全体の共同作業をより効果的に進めるために、ＡＵの構造改革を引き続き推進する必要がある。

（５）皆様もご承知のとおり、構造改革の実施に関しては、加盟国間で様々な議論が交わされてきた。例えば、輪番制の原則の適用、その発効時期、主要な役職の候補者の地域別配分など、多くの論点が提起された。

（６）課題の緊急性と重要性を踏まえ、２０２４年３月に臨時閣僚理事会を開催し、輪番制の原則の適用方法及び各地域がどの指導的ポストに適格かを明確に定める決定を採択した。これは、地域間の公正で均衡のとれた代表性を確保するための重要な措置である。

（７）この改革の流れに沿って、ＡＵＣのスキルレビュー及び能力査定の見直しにも取り組んだ。その一環として、２０２４年１１月には再び臨時閣僚理事会を開催し、このプロセスを完了するための最良の方法を協議した。その結果、改革を進めるための明確な解決策とロードマップを示す決定が採択された。

７ 結び

（１）私は、ＡＵ議長就任時の演説において、我々が直面する障害を乗り越え、課題を克服するためには、団結し、力を結集することが不可欠である、それは我々の共通の価値観、運命共同体として自覚が要求することであり、我々の目指す崇高な目標の達成には欠かせないものであると述べた。

（２）本日、私はこの考えを改めて強調しつつ、ＡＵ議長の職務を、ロウレンソ・アンゴラ大統領に引き継ぐ。閣下の今後のご成功を心よりお祈りするとともに、必要な支援と協力を惜しまないことをここに約束する。

（３）また、この機会に、ファキ・ＡＵＣ委員長に対し、深い敬意を表する。委員長の卓越したリーダーシップに敬意を表し、私の任期を通じた絶え間ない支援と貢献に対して心から感謝申し上げます。さらに、ＡＵＣのすべてのメンバー及び各機関の皆様にも、深く感謝申し上げます。

（４）私は、議長としての任務を終えるにあたり、この任期を通じてアフリカのために尽力し、その声を国際社会に届け、大陸の利益を守る機会を得られたことを、誇りに思う。そして、私はこれまで以上に、アフリカがアジェンダ２０６３の目標を達成できると確信している。これからもその実現に向けて積極的に貢献していく決意である。

（５）改めて、ロウレンソ大統領の議長就任を祝福するとともに、本総会の成功を心より願う。

●A U議長国としての評価（メルズーグ外務・アフリカ協力・在外モーリタニア
人大臣インタビュー）

（2月25日付、当地独立系メディア「Le Calame」）

1（問）大統領はA U議長の任期を終えたばかりだ。モーリタニア外交のトップとして、どのようなお気持ちか？

（答）3つのことを感じている。第一に、A Uのトップとしての大統領の任務が大成功を収めたことへの誇り。第二に、北アフリカの首脳、そして彼らを通じてアフリカのすべての首脳が、我々の議長任期を通じて信頼と支援をしてくれたことへの感謝だ。そして最後に、コミットメントをもってアフリカのために成し遂げた仕事に対する満足感である。

自分は常に、議長の選出は単なる偶然の交代ではないと考えてきた。ガズワニ大統領の卓越した国家指導者としての資質、そして合意形成に優れた能力が評価された結果だと考えている。こうした資質は不確実性と激動に満ちた状況の中にあるA Uにとって不可欠なものであった。

誰もが認めるガズワニ大統領のリーダーシップの下、A Uはその法的枠組み、アジェンダ2063で定められた戦略的・プログラム面での選択及び制度の調和を尊重し、大きな前進を遂げた。

これは、将来に向けて見習うべき模範である。そのためには、A Uのシステム全体を規定する文章をよく理解する必要がある。

さらに、この議長職を通じて、我が国は多くのアフリカ諸国との二国間関係を強化することができ、それによって（アフリカ）大陸の舞台における主要なプレーヤーとしての地位を固めることができた。この間の努力は、今後もアフリカ全土で実を結ぶと確信している。

2（問）モーリタニア外務大臣として、あなたはA U議長である大統領に随行し、アフリカ大陸内及びアフリカ外を歴訪してきた。A Uのトップであった12か月間のハイライトは何であったか？

（答）自分は、A U議長の役割を果たす大統領に12か月間同行するという、多大な名誉及び特権を得た。就任当初は国への責任を負っていたにもかかわらず、アフリカを行動の中心に据えてきた大統領にとって、この責任を果たすことは容易なことではなかった。A U議長は、世界のあらゆるイベントに出席してきた。

今日、我々は、アフリカが世界の地政学における特権的な主体として主導権を取り戻したことを誇らしく言うことができる。ニューヨークの国連、リオデジャネイロのG20、北京、ソウル、パリ、ジュネーブ、バクー、ハンブルグ、パリなど、あらゆる国際舞台においても、アフリカの大義を訴えるのではなく、多面

的な外的ショックに直面した際の強靱性の象徴となった大陸全体のビジョンを共有した。

制度改革は、我々の議長職にとって重要で基盤となる瞬間があったが、それに加えて、議長国としての決定的な成果も特筆すべき特に重要なものを三つ挙げたい。

まず、新たな進展として、リオデジャネイロで開催されたG20サミットにおいて、アフリカが正式なメンバーとして地位を確立した。また、韓国・アフリカ・サミットでは、アフリカへの政府開発援助に充てられる韓国の資金が55億ドルから100億ドルへと大幅に増加した。この資金援助に加え、アフリカ大陸に投資する企業を支援するための輸出融資枠が2030年までに総額140億ドルに拡大されることが決定された。さらにナイロビ・サミットでは、2025年から2028年にかけての国際開発協会（IDA）の第21次融資サイクルに対する支援を動員、IDAの資源を1000億ドル以上増加させることを目指し、そのうち300億ドルはドナー国による拠出が見込まれている。

次に、2024年12月10日にヌアクショットで開催された「教育、若者及び雇用可能性に関する大陸会議」は、「21世紀に向けたアフリカの教育及び資格認定：アフリカにおける包括的で継続的かつ質の高い、実践的な教育へのアクセスを拡大するための強靱な教育システムの構築」をテーマに掲げた。この会議では、若者と女性のエンパワーメントを促進し、急速に変化する世界に対応するための新たなアフリカの教育パラダイムの基礎を築くための教育システムの質的転換の道筋が示された。

最後に、アフリカ統合の現状に関する課題を完全に掌握するための条件整備とAUCと地域経済共同体（RECs）の間で明確な役割分担を図ることを目的とした、汎アフリカ主義的な新たな政策の草案が策定された。この草の根的アプローチは、アジェンダ2063の第2次10か年計画の実施に必要な資源の動員において、アフリカの政治的、技術的、財政的パートナーが全面的な役割を果たすよう促すためのものである。具体例として、AUC、アフリカ開発銀行（AfDB）、国連アフリカ経済委員会（UNECA）が、それぞれの役割を果たしながら、この大陸規模の動きを支援することが求められる。このことを念頭に置き、統合プログラムは、「測定の練習であり、行動への呼びかけ」である総合的な地域統合指標を通じて、モニタリングと評価が組み込み実施されなければならない。

3（問）大統領は2月17日、アンゴラ大統領にバトンを渡した。彼は同僚たちにどのような印象を残したのだろうか？モーリタニア外交は今、大陸及びアラブ世界及び西側諸国の中でどのような位置を占めているのだろうか？

（答）ガズワニ大統領は、そのダイナミックで積極的なリーダーシップ、英知、そして時に困難な状況でも合意を見出す能力を高く評価されている。平和、安全保障及び大陸の社会経済発展に対する大統領のコミットメントは特に高く評価された。サミットを通じて、他国の首脳、A U C 及び各パートナーからの評価は非常に高かった。

特に、2024年11月にA U がG 20の恒常的なメンバーに選出されたことは、世界情勢におけるアフリカのプレゼンスの高まりを象徴するものである。

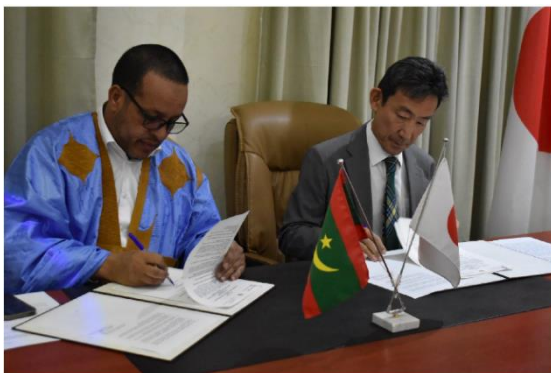
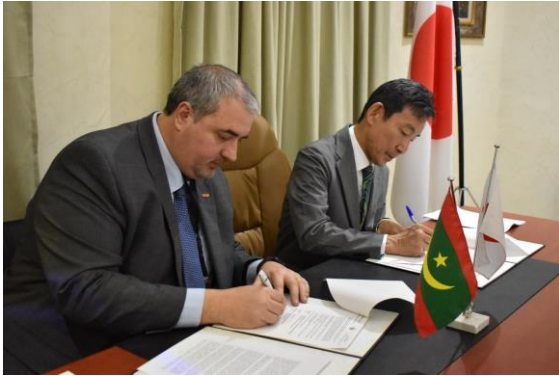
さらに、リビアやスーダンのような地域の危機における調停者としての役割は、紛争の平和的解決を促進する能力を示している。これらの行動により、ガズワニ大統領は献身的で効果的な指導者としての評判を高め、アフリカの関係者に持続的かつ肯定的な印象を残した。

ガズワニ大統領のA U 議長職は、アフリカ大陸内外でモーリタニア外交の知名度を大きく高めた。モーリタニアは現在、アフリカの平和と安全保障を推進する重要な主体と見なされ、紛争の調停や地域協力の強化において中心的な役割を果たしている。

国際舞台、特にアラブ世界及び西側諸国において、モーリタニアは二国間及び多国間関係を強化し、持続可能な開発、テロとの闘い、気候変動等の問題に関する世界規模課題において、信頼できるコミットしたパートナーであることを主張している。このような外交的ダイナミズムの高まりは、モーリタニアが大陸レベル及び国際レベルの双方において、豊かで平和な未来のための集団的努力に積極的に貢献しようとしていることを物語っている。

【経済協力】

● 2月10日、内田大使は、令和6年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「マガマ市フィンボ小学校整備計画」及び令和6年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力「トゥジュニン市イブン・ハルドゥン小学校整備計画」署名式を執り行った。



● 2月13日、内田大使は、令和3年度対モーリタニア無償資金協力「水産職業訓練センター施設整備計画」開所式を執り行った。





● 2月27日、内田大使は、令和4年度対モーリタニア無償資金協力「経済社会開発計画」の下で供与した農業機材の引渡式を執り行った。





【広報・文化】

●日本伝統音楽・書道グループ「TODOROKI with KOUKA」公演

2月11日から13日まで、国際交流基金の海外派遣助成事業で当地を訪問した日本伝統音楽・書道グループ「TODOROKI with KOUKA」は、国立博物館、外交アカデミー、アンスティチュ・フランセ、私立シェイク・ムーサ小学校の4か所で公演を実施し、外交アカデミーでは現地音楽グループEl Vajer とのコラボ演奏を行うなど、子供から大人まで幅広い層に好評を博した。



●武内東京外国語大学教授によるオンラインセミナー

2月27日、外交アカデミーにおいて、「日本の対サブサハラ・アフリカ協力及びTICADへのインプリケーション」をテーマとしたオンラインセミナーが開催され、東京外国語大学の武内進一教授が登壇し、日本とアフリカの関係の発展や今後の展望について講演を行った。モーリタニア政府関係者、モーリタニア日本友好議連メンバー、国営メディアジャーナリストなどが出席した。



【その他】

●建国記念日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の祝意

(2月10日付、当地政府系メディアAMI)

「陛下、

貴国の建国記念日をお祝いするにあたり、私は陛下に心からお祝い申し上げますとともに、友人である日本国民の健康、進歩、繁栄を心から祈願します。

また私は、友人である両国民の利益に奉仕するために、両国間の既存の協力関係を強化し発展させる努力を継続する意志を改めて表明します。

敬具

モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ」

●令和6年度天皇誕生日祝賀レセプションの開催

1 2月21日夜、内田大使はメルズーグ外務・アフリカ協力・在外モーリタニア人大臣、モワン高等教育・科学研究大臣他、多数の要人の列席を得て、公邸にて本レセプションを開催した

2 本レセプションでは、大臣一行到着後、一行と暫し懇談した後に式典を開始し、両国国歌の演奏に続いて内田大使からアラビア語及び仏語を交えてスピーチを行った。



●天皇誕生日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の祝意

(2月22日付、当地政府系メディアAMI)

「陛下、

日本国民が陛下の65歳の誕生日をお祝いするにあたり、私個人、モーリタニア・イスラム共和国政府及び国民の名の下に、陛下に心からお祝い申し上げるとともに、陛下にご健康とご多幸、そして友人たる日本国民にさらなる発展と繁栄を祈願します。

敬具

モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ」